

令和3年度 総合情報基盤センター研究開発申請書

2020年10月21日

総合情報基盤センター
 所長 田中 康一郎 殿

私は、令和3年度総合情報基盤センター研究開発における研究開発者として、下記のとおり申請いたします。

記

研究開発代表者		
氏名	所属	職名
呉 紅 華 印	語学教育研究センター	教授
内線番号/携帯番号	電子メールアドレス	
5813/080-4287-1397	wu@ip.kyusan-u.ac.jp	

研究開発分担者または研究開発協力者				
No.	氏名	所属	職名または学籍番号	研究開発者区分 (○をつけて下さい。)
1	李 岩	語学教育研究センター	非常勤講師	分担者 協力者
2	顧 紅 英	語学教育研究センター	非常勤講師	分担者 協力者
3	于 佳	語学教育研究センター	非常勤講師	分担者 協力者
4	王 晨	語学教育研究センター	非常勤講師	分担者 協力者
5	永利 結衣	語学教育研究センター	事務職員	分担者 協力者

研究開発期間 (実際の研究開発期間 をご記入ください。)	2021年4月1日 ~ 2022年3月31日			
研究開発課題名	初修中国語予習復習用副教材の研究と開発		研究開発テーマ (○をつけて下さい。)	
			① ・ ② ・ ③	
使用計算機名 (○をつけて下さい。)	Windowsサーバ・Linuxサーバ・Windowsパソコン・Linuxパソコン・Macintoshパソコン その他()			
研究開発経費	申請予算総額	申請予算総額の内訳		
		消耗品費	一般旅費	諸会費
	335千円	35千円	50千円	千円
		購読費	通信費	諸手数料
50千円	千円	200千円		

研究開発課題について

1. 研究開発の背景（動機）と目標

（1）研究開発の背景（動機）

全学卒業要件の外国語科目のうち英語必修8単位以上が導入され、選択科目の初修外国語の受講意識が年々薄れてきている。多くの学生は専門科目や英語科目の単位修得に追われ、卒業要件以外の初修外国語にかかる学習時間がほとんどなくなった。特に中国語は発音が難しく途中で挫折する学生が多い。

難関の発音段階を乗り越え、より多くの学生に中国語学習を継続させるためには、授業前後の予習復習が重要である。また、その貴重な時間を効果的に使うためには、工夫が求められる。そこで考えたのが発音・単語・会話の練習用eラーニングを導入して、限られた時間で確実に中国語学力を向上させる研究開発である。

（2）研究開発の目的（解決すべき課題）

シラバスにも記載しているように授業前後の予習復習は必須である。学生が予習復習として発音や語彙力の学習をスマートフォンやPCを用いていつでもどこでも気軽に、かつ主体的に学習できるようにすることにより、発音段階で挫折する学生を減らし学習意欲を持たせることが今回の解決課題である。

（3）研究開発の目標

令和3年度の後学期の中国語の授業に導入し効果を確認できるようにする。

この研究開発は一年で完成するものではなく、令和3年の初年度は初級中国語、具体的には、中国語Ⅰ/Ⅱ及び中国語会話Ⅰ/Ⅱの履修学生の単位修得率を80%以上に、中国語検定準Ⅳ級の合格率を受験者の30%以上にする。また学生の取組状況を分析した結果を参考として将来は本学学生の中国語学習に適した独自の教科書開発にも着手する予定である。

（4）研究開発の方法

非常勤教員と協力し、授業内容の定着と検定試験の練習問題を作成する

① 発音編 5回分（予習15分＋復習30分）

② 語彙編 8回分（予習10分＋復習10分）

③ 会話編 8回分（予習10分＋復習20分）

それぞれ「聞く・話す・読む・書く」の練習問題を一学期13回分作成

（教科書の練習問題＋中国語検定準Ⅳ級の問題）

語学教育研究センターが現在利用しているMoodleシステムに中国語eラーニングを開発し、作成した練習問題をシステムの中で使いやすく運用し、その後の保守などもサポートしてもらうようにする。

2. 研究開発の成果、有用性

（1）研究開発の成果

eラーニングでの学習を繰り返す事により発音の弱点を克服し、学習した内容を定着させて全学共通科目の中国語の学習効果を高め、中国語検定対策としても確実に合格率を上げることが期待される。

（2）研究開発成果の本学における有用性

このeラーニングシステムは本学の中国語履修学生約2,500名を対象としているが、履修学生以外の中国語に興味がある学生でも利用可能として誰もが学習できる機会を与え語学力の向上にもつなげられる。

3. 研究開発の新規性または必要性

現在、誰もが取り組める中国語eラーニングは本学では導入できていない。また初期段階の発音から取り組ませることにより、学習者は容易に授業内容の予習復習が可能となる。

本研究開発は、授業前後の予習復習時間を有効利用し、負担なく練習できるシステムであり、授業時に使う教科書の類はたくさん存在するが、授業内容と関連付けて作成した練習問題を予習復習用に利用し、教員が管理できるシステムはほとんどないので、今年度前期のオンライン授業を通じてさらにその必要性を強く感じた。その新規性と必要性は明白である。

4. 研究開発の計画

(1) 研究開発体制（役割分担等）

発音編 李 岩 語学教育研究センター・非常勤講師

単語編 顧 紅英 語学教育研究センター・非常勤講師

会話編 于 佳 語学教育研究センター・非常勤講師

会話編 王 晨 語学教育研究センター・非常勤講師

統括編集 呉 紅華 語学教育研究センター・教授

運営管理 永利結衣 語学教育研究センター・事務職員

システム開発は中国書店に依頼する。

その後の連携・運用・保守は語学教育研究センター教員・呉と同事務職員・永利が担当する。

(2) 研究開発スケジュール

いつまでに	実施内容
令和3年4月	発音編（声調と単母音・複母音・子音・鼻母音・総合練習の順） 15分の予習問題、20分の復習問題
令和3年5月	単語編（前期の語彙100から300まで） 10分の予習問題、10分の復習問題
令和3年6月	会話編（前期の会話文）50～100文 10分の予習問題、20分の復習問題
令和3年9月	語学教育研究センターが運営しているMoodleシステムを導入し、 後学期の中国語Ⅰ/Ⅱ、中国語会話Ⅰ/Ⅱのクラスに使う。
令和3年11月	統一試験とアンケート実施 使いやすさとその有効性を集計 実用性・有効性を検証・報告

5. 研究開発の成果物に関するICTの活用

(1) ICTの具体的な活用方法・活用手順

語学教育研究センターにて、Moodleを用いてeラーニングシステムを構築し、学内外から各種デバイスを問わず利用可能とする。

- ① 予習した課題を授業開始前に担当教員に送る。
- ② 担当教員は確認し、間違ったところを授業中に訂正・説明する。
- ③ 復習課題は授業内容と関係づけて反復練習をする。その結果も確認できる。
- ④ 成績評価に連動しそのデータなどを今後の中国語学習に活用できるようにする。
また学生の不正解箇所などを統計的にデータ分析して教科書作成にも反映させる。

(2) 応募研究開発テーマとの関連性

研究テーマ② 情報通信機器を用いた教育教材に関する課題

本学の非常勤講師と連携し、授業内容と検定試験問題に合わせた練習問題を作成し、Moodleシステムに導入し、学生がいつでもどこでも予習復習できる。それら練習問題は教員の管理の下で実施・弱点克服・成績向上につながる。

研究テーマ③ 情報通信機器を用いた授業方法に関する課題

システムの中で運営し、担当教員は学生の予習復習課題を把握し、実際の授業内容と関係づけて弱点克服や反復練習に利用できる。またその結果も確認できる。成績評価に連動しそのデータなどを今後の中国語学習に活用できるようにする。